

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

KYOGEI
TERRACE

テラスのような大学・京都芸大



京都市立芸術大学移転記念事業

長谷川直人・重松あゆみ

退任記念展

テクスチャー・ストラクチャー

— 現代陶芸 同時代の異なるアプローチ —

2024年3月20日(水) - 31日(日) 11:00~18:00

京都市立芸術大学 C棟 6階 交流スペース

入場
無料



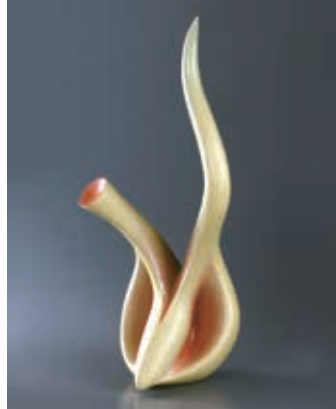
untitled 1988



ただそこにあるもの 2008



Work '90-8 1990



骨の耳 '96-6 1996

長谷川直人と重松あゆみ。京都市立芸術大学で共に学び、共に教鞭をとってきた二人の創作者が退任する。二人の制作上の軌跡は近作を中心に初期作品をも紹介する本展において具体的に示されるが、どちらの活動もやきものの根幹に触れる試みであったことにあらためて気づかされる。長谷川の仕事とは、もの自体が有する個性と状況が作り出す偶然性と素材と技法、焼成による関係を通じて発見していく、創作者と観察者の二面性を有したものである。その中で表面の質感や物質性が重視されてきたが、それは質感を通じて人と自然、人工物(やきもの)との距離感を再検証するための実践であり、うつわを賞玩してきた人々の「眼」を相対化させる試みでもある。一方、重松は目と手と土とのせめぎあいによるその時々判断の集積において外部空間と内部空間が生み出す構造と造形の一体化に挑んできた。縄文土器に深く傾倒する近年は、空洞や穴、突起物などを起点としたいくつもの構造がゆるやかにつながる多中心的な作品を制作している。いわばこれはやきものの形の意味を問いかける、周囲の空間をも取り込んで成立する内部空間を有した造形物なのである。

展覧会タイトルは「[テクスチャー・ストラクチャー]—現代陶芸 同時代の異なるアプローチ—」である。質感と構造という陶磁器を構成する二大要素に焦点が当てられているが、質感や肌理は外界と接する表面であり構造は内部空間(うつわ性)を有するやきものの形状を指す。言うまでもなく、それぞれの要素は両者が長年にわたり探求してきた課題であり、それぞれの異なる視点を通じてやきもの固有の形態感が示されてきた。その意味で両者が同時期に同大学で教鞭をとっていた事実は「陶磁器」専攻を掲げる大学にとって、重く、二人同時の退任記念展は次代への課題を投げかけるものとなる。

大長智広(京都国立近代美術館主任研究員)



ただそこにあるもの 2019



ただそこにあるもの 2022



Green Orbit 2011



Lunar Flame 2018

長谷川直人
 1985 京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻修了
 1990~ 京都市立銅蛇美術工芸高校教諭
 1992~ 京都市立芸術大学美術学部専任教員
 1995 京都市芸術新人賞

【主な展覧会】

- 1992 「次代を担う作家」展(京都府立文化芸術会館)
- 1992 1992現代陶芸国際邀請展(台湾・国立歴史博物館)
- 1996 交感する陶芸(愛知県陶磁資料館)
- 1997 「美の予感」展(高島屋)
- 1998 作り手たちの原像展(滋賀県立陶芸の森 陶芸館)

アートスペース 虹(京都)／ギャラリー プス(東京)／ギャラリー 目黒陶芸館(三重)
 ギャラリー 器館(京都)／ギャラリー マロニエ(京都)／ギャラリー 白3(大阪)
 ギャラリー いそがや(東京)／SILVER SHELL(東京)／ギャラリー TAO(東京)
 THO ART SPACE(韓国・Seoul)などに個展

重松あゆみ
 1983 京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻修了
 2002~ 京都市立芸術大学美術学部専任教員

【主な展覧会】

- 1993 「現代の陶芸 1950-1990」(愛知県美術館)
- 1998 「[かたち]の領分—機能美とその転生—」(東京国立近代美術館工芸館)
- 2001 「現代陶芸の精鋭」(茨城県陶芸美術館)
- 2003 「大地の芸術—クレイワーク新世紀」(国立国際美術館)
- 2009 「Touch Fire」(スミスカレッジ美術館・アメリカ)
- 2013 「美術の中のかたち—手で見る造形 近いかたち、遠いかたち」(兵庫県立美術館)
- 2018 「Taiwan Ceramics Biennale」(新北市立鶯歌陶瓷博物館・台湾)

【主な受賞】

- 1998 第10回倫雅美術奨励賞
- 2001 平成13年度兵庫県芸術奨励賞
- 2017 平成28年度日本陶磁協会賞
- 2018 第31回京都美術文化賞

ギャラリートーク

3月20日(水) 15:00~(予定)

司会 井上明彦(京都市立芸術大学名誉教授)

会場:京都市立芸術大学 C棟 6階 交流スペース

※詳細は、京都市立芸術大学ホームページでご確認ください。

